



富士市の歴史文化探訪

富士山のかぐや姫





書  
 畫  
 五  
 拾  
 三  
 驛  
 河 駿  
 吉 原  
 竹 取  
 古 事

「書画五拾三驛 駿河吉原 竹取ノ古事」明治五年（一八七二）富士山かくや姫ミュージアム蔵



## 目次

富士に伝わるかぐや姫の物語	2
富士のかぐや姫伝説を語る史料	4
かぐや姫伝説マップ	6
滝川神社・竹採塚・囲いの道・見返し坂	8
寒竹浅間神社・今宮浅間神社	10
富知六所浅間神社	12
東泉院跡・飯森浅間神社・手児の呼坂	14
竹採公園	16
おすすめモデルコース	18
かぐや姫伝説の関連イベント	20
富士山かぐや姫ミュージアム	21



# 富士に伝わるかぐや姫の物語

「今は昔、竹取の翁おきなといふ者有りけり・・・」

竹取物語は一人の老人が竹の中から小さな女の子「かぐや姫」をみつける運命的な出会いの場面から始まります。

この物語は平安時代に書かれた「源氏物語」の中で、「物語の出で来いき始めの祖」とされ、昔話の題材になるなど、時代を越えて日本を代表する作品といえます。ですが、作者や成立年代について分からないことが多く、謎に包まれた物語でもあります。物語は竹から生まれたかぐや姫が美しく成長し、五人の貴公子からの求婚、帝との交流を経て、月からの迎えを受け故郷に還っていくストーリーが広く知られています。

しかし、富士山南麓では古くから異なる「赫夜姫かくやひめ」の物語が語りつがれてきました。「赫」という字は輝くという意味があり、夜でも昼間のように明るく輝くような神々しい光りを放っていたことから、「赫夜姫」と名付けられたとされています。物語の結末では、赫夜姫は

月ではなく富士山に還ってほら穴に入り、その正体は浅間大菩薩せんげんだいぼさつ、竹取の翁が愛鷹明神あしたかみょうじん、媼が犬飼明神いぬかいだとされ、浅間大菩薩とは、富士山の噴火の神である浅間大神あさまのおおかみのことで、赫夜姫がまさに富士山に宿る神様として、富士山南麓で傳承されてきたのです。



秋里籬島『東海道名所図会』寛政9年（1797）富士山かぐや姫ミュージアム蔵



# 東海道 五十三對

原

東海道五十三對の囚富士山の眺  
 此箱のすきを穿てては  
 世にわたりては  
 山と名体を起えり

竹取の箱と娘蘇我姫の姿顔雪肌  
 衆人あれは後宮に入内せよと  
 勅宣あれども是ふあまのひまを  
 命死の業と一封の紙をうけて  
 ける所門内あひまのひまの  
 命と死の業をすかの國の  
 山と名体を起えり

伊勢板



歌川広重「東海道五十三對 原 竹とり物語」弘化年間（一八四〇〜四八）富士山かぐや姫ミュージアム蔵

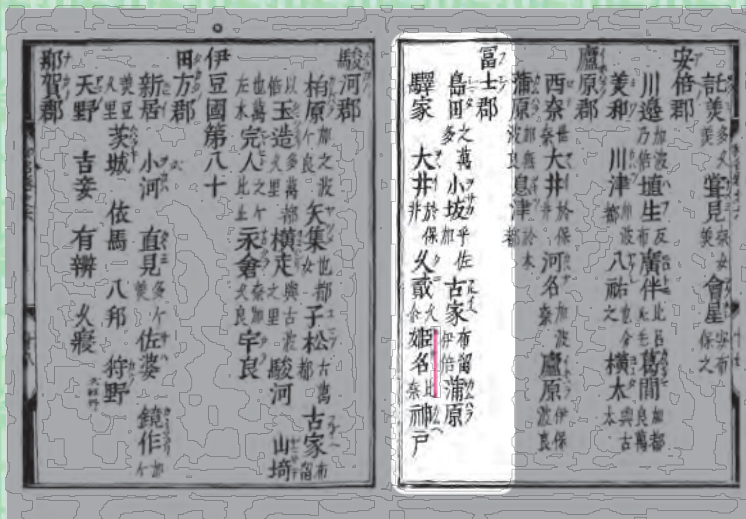


# 富士のかぐや姫伝説を語る史料

平安時代中期に編纂された『和名類聚抄』は、現在の国語辞典や百科事典をあわせた辞書のようなもので、駿河国富士郡の郷を列記した項において、「姫名」に「ひな」という読み仮名を記しています。これは現在の比奈地域を指していると考えられます。

比奈地域には、富士山に帰るかぐや姫の物語におけるゆかりの地が多く点在しており、この比奈地域について紹介したさまざまな記録の中にかぐや姫に関する記述がいくつも登場します。

たとえば臨済宗中興の祖といわれる白隠慧鶴（一六八五～一七六八）による『荆叢毒藥』無量寿禅寺草創記や、文政三年（一八二〇）に編纂された地誌『駿河記』、文化十三年（一八一六）天保五年（一八三四）に記された『駿河国新風土記』、文久元年（一八六一）に編纂された『駿河志料』等で紹介されています。このことはまさに比奈地域が、かぐや姫の物語の舞台であることが知られていたことを示しています。



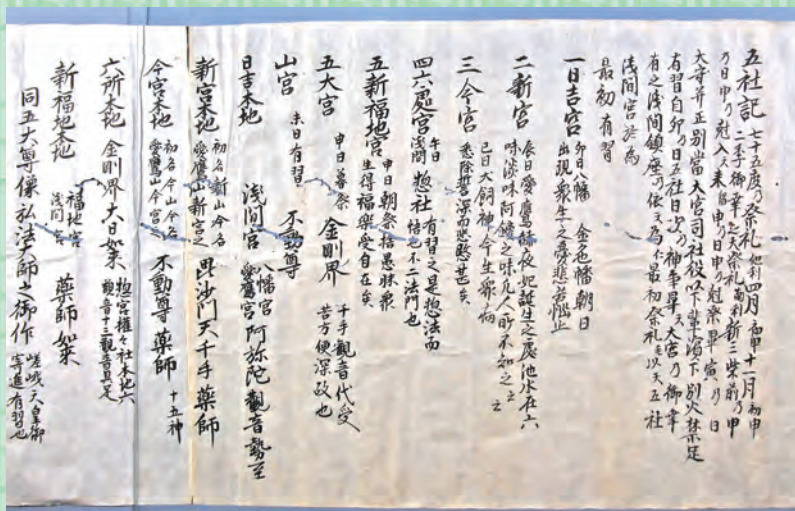
『和名類聚抄』国郡部第十二 駿河国第七十九 国立国会図書館蔵



また、この地域には、富士山及び富士山信仰に関わった神社の由来や伝説等を記した縁起書「富士山縁起」が数多く伝来します。その中には、富士山の祭神として、天女やかぐや姫を取り上げたものがみられ、作られた時代や場所によって様々な種類があります。

現在の吉原公園（富士市今泉）がある一带には、戦国時代から明治初年までの約三五〇年にわたり、密教寺院「富士山東泉院」がありました。東泉院は、ほぼ現在の富士市域に当たる富士郡下方<sup>しもかた</sup>において、富士山を祀る五社（以下、下方五社）を統べて管理する別当<sup>べつとう</sup>として、今川義元等<sup>いまがわよしもと</sup>、時の権力者からその地位を認められていました。その東泉院にも富士山縁起が伝来し、富士山南麓におけるかぐや姫の物語を伝える中心的な存在となったのです。

比奈地域や、下方五社の神社、その他富士市各地域において、物語ゆかりの地とされる場所は、こうした富士山縁起や地誌等によって広く周知され、現在まで伝承され続けているのです。



『富士山大縁起』永禄3年（1560）の内「五社記」部分 富士山かぐや姫ミュージアム蔵



# かぐや姫伝説マップ

## ナビ検索案内



例 富士市立博物館  
富士市伝法66-2  
来館者用駐車場あり

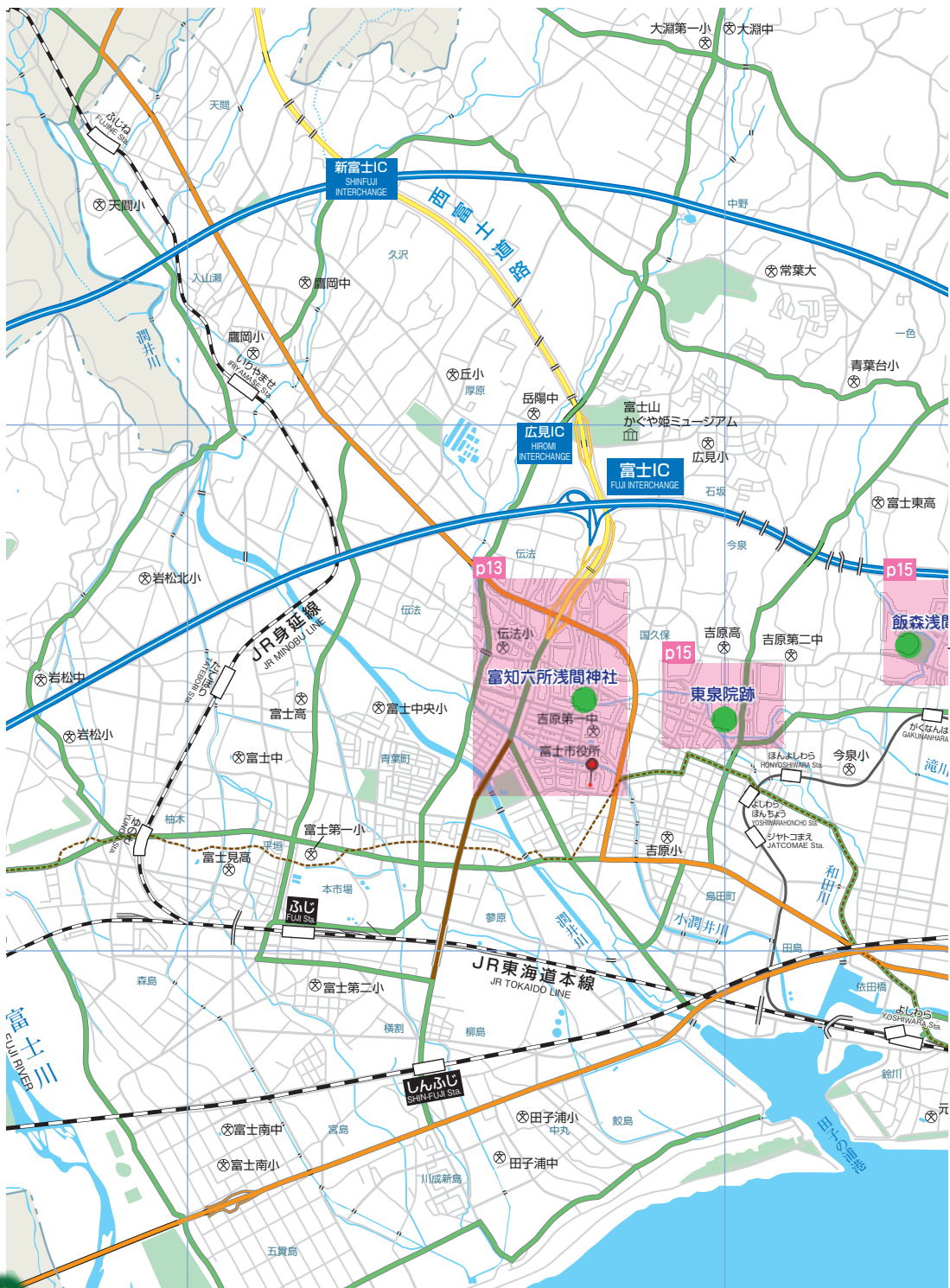
史跡の名称で直接ナビ検索できない場合は、  
近くの目印になる公共施設等で検索してね！

## ☆お願い☆

史跡には必ずしも駐車場があるわけではありません。  
近隣の公共施設等に駐車する場合は、必ず施設の管理者に許可を  
いただいでください。









富士山へ昇る  
かぐや姫伝説の舞台



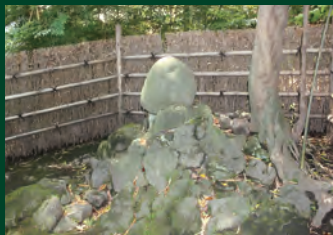
たきがわじんじゅ  
滝川神社

下方五社の一つで、江戸時代以前は、「新宮」、「原田浅間社」等と呼ばれていました。「五社記」ではかぐや姫が誕生した場所とされ、養父である竹取の翁を祀っていることから、「父宮」とも呼ばれます。右図は、桑原藤泰編『駿河記』（文政3年：1820）に描かれた滝川神社（左）と、竹取の翁が住んだとされる「竹取屋布」（右）です。この竹取屋布の門前で、翁が籠を作ったとされることから、「籠畑」という地名（小字）が伝わっています。

◆滝川神社 富士市原田1309



国立国会図書館蔵



たけとりづか  
竹採塚 【富士市指定史跡】

現在の竹採公園は、かつて「竹取屋布」があったとされる場所で、自然石に「竹採姫」と刻んだ小さな塚があります。いつ誰が建てたのかわかりません。竹採公園については〈p16-p17〉をご覧ください。

◆竹採公園 富士市比奈 2085-4 ㊦ 普通車 8台



かこ みち みかえ ざか  
**囲いの道・見返し坂**

かぐや姫が富士山に還る際に通ったとされる道を「**囲いの道**」といいます。この辺りは「**赫夜姫**」という小字名になっています。

また、道すがら別れを惜しんで振り返った場所を「**見返し坂**」といい、この辺りは「**見返し**」という小字名が残っています。



滝川山神社

妙善寺観音堂

鑑石園

鑑石

永明寺

滝不動

鑑ヶ淵  
親水公園

滝川

かがみ石公園

滝川福祉センター

滝川神社



字見返

見返し坂

昭和自動車学校

大坂上古墳

囲いの道

字赫夜姫

静岡県立吉原工業高等学校  
 富士市比奈2300

東名高速道路



富士市立吉原第三中学校  
 富士市比奈2126

竹採塚

竹採公園

字籠畑

玉泉寺



御崎神社

22 三島富士線

岳南原田駅

比奈駅

みょうぜん し かん のんどう かがみし  
**妙善寺観音堂・鑑石**

おぐりほんがんでるてひめ  
 小栗判官の妻である美しい照手姫が、夫の帰参を待って過ごしたのが妙善寺で、いつでも夫を迎えられるように毎日身だしなみを整えるために水鏡にしたのがこの鑑石です。また、この鑑石で、かぐや姫が顔をうつしたとする説もあります。

◆かがみ石公園 富士市原田 1350 □普通車 3台





かんちく せんげんじんしゃ かんちく こんげんしゃ  
寒竹浅間神社(寒竹権現社)

寒竹浅間神社は寒竹権現社とも称され、この辺りの地名を権現原<sup>こんげんばら</sup>といい、かぐや姫を育てた老夫婦、竹取の翁と媼の屋敷があったと伝えられる場所です。寒竹とは、高さ2～3メートルほどになる小型の竹の品種で、竹を編んだり加工したりしていた竹取の翁は、別名「寒竹の翁」ともいわれました。

神社本殿の背部には、高さ約3メートル、南北へ幅約15メートルほどの岩壁がそびえます。これは、約1万数千年前の富士山の溶岩流（大淵溶岩流）がここまで達し固まったものです。富士山を祀る浅間神社がこの地に鎮座するのも、この溶岩の露頭を富士山の神体に通ずるものとして祀ったことによると考えられ、富士山の神であるかぐや姫がこの地で育ったとする伝説にふさわしい場所といえます。



◆寒竹浅間神社 富士市富士岡 駐車場なし





● 今宮浅間神社

■ コンビニ

滝川

24 富士裾野線

吉永二小 ■



いまみや せんげんじん じゃ  
今宮浅間神社

下方五社のひとつで、「母宮」と呼ばれ、竹取の媼を祀ると伝わっています。貞観 6 年 (864) の富士山の大噴火の際、過去に形成された溶岩の先端に、当社を建てて無事を祈ったという説もあります。

また、境内には富士市指定天然記念物のスギがあります。

◆富士市今宮 参拝者用駐車場あり



富士市立高等学校  
富士市比奈1654



吉永まちづくりセンター  
富士市比奈1447-1  
利用者用駐車場あり

76 富士市田中線  
新東名高速道路

東名高速道路

字権現原  
医王寺

寒竹浅間神社

■ 竹採公園

■ 玉泉寺

■ 諏訪神社  
■ 長学寺

吉永一小

■ 吉原東中

22 三島富士線

比奈駅

岳南電車

岳南富士岡駅

赤淵川





かぐや姫を祀る  
富知六所浅間神社



ふ じ ろ く し ょ せ ん げ ん じ ゚ しゃ  
富知六所浅間神社

下方五社のひとつで、「六所宮」といわれました。市内では「三日市場のお浅間さん」として親しまれる神社です。由緒によれば大同元年（806）に社殿が建立されたとされます。江戸時代の地誌『駿河国新風土記』には、祭神として「赫夜姫」が祀られていることが記されています。平成28年に社殿が建て替えられました。



境内の東側には富士山からの湧き水が出ており、東に向かって吉原を経て海へ流れ出ています。ここから流れる川を和田川わだがわといいますが、「宮川」「御手洗川みたらいがわ」などとも呼ばれ、神聖な川とされていました。現在は水量が減りましたが、以前は深い淵をつくるほどで、富士山を信仰する当社がこの地に鎮座した由縁と考えられます。

◆富知六所浅間神社 富士市浅間本町 5-1  
参拝者用駐車場あり

ふ じ ろくしょせんげんじんじや おお

## 富知六所浅間神社の大クス 【静岡県指定天然記念物】

境内には御神木として大クスがあります。樹齢にして推定 1200 年といわれ、江戸幕府が作成した『東海道分間延絵図』(文化 3 年：1806) にも、六所宮の境内に大クスと見られる大樹が描かれています。



うる い がわ  
潤井川

かぐや姫が富士山に登り姿を消したとき、人々が嘆き憂えて涙したところを「憂涙川」と呼んだと伝わっています。

潤井川

中央公園

富士市役所

富士市永田町 1-100  
来庁者用駐車場あり

小潤井川

和田川  
(御手洗川)

富知六所浅間神社

妙永寺

吉原一中

本光寺

青葉通り



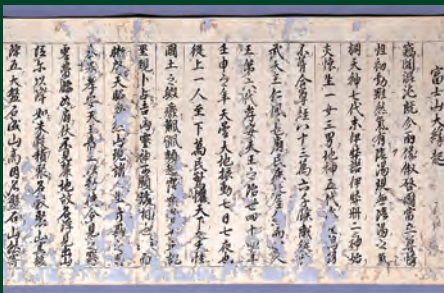
かぐや姫の物語を伝えた  
富士山東泉院



とう せん いん あと      ふ じ さん えん き  
東泉院跡と富士山縁起

現在、吉原公園として整備されているこの地には、明治初年まで、富士山東泉院という寺院がありました。東泉院は、下方五社の別当を世襲した有力な寺院で、「富士山縁起」(富士山に関わる寺社の由来や伝説を記した縁起書の総称；左下写真)が伝来し、富士山南麓におけるかぐや姫に関する説話を伝えています。

吉原公園には東泉院時代の宝蔵(上写真)と、明治の神仏分離による廃寺に伴い還俗(出家した人が俗人に戻ること)した六所家の旧宅の門と板塀(右下写真)が残っています。



『富士山大縁起』元禄10年(1697)  
富士山かぐや姫ミュージアム蔵





いいもりせんげんじんじゃ  
飯森浅間神社

かぐや姫の世話をした下婢(召使いの女性)が祀られているといわれています。

飯森浅間神社



たごよぶさか  
手児の呼坂

「手」は「照」で、美しい娘の意味を持ち、西から来てこの坂の先に美しいかぐや姫が待っていることを指しているという説(『駿河記』)もあります。



ひよしせんげんじんじゃ  
日吉浅間神社

かつて下方五社のひとつで、東泉院の境内社「日吉宮」でした。

◆富士市今泉8丁目5-1



吉原公園  
富士市今泉8丁目5-10  
P 普通車6台







自隠禪師に導かれ

物語の舞台をゆく

たけとり こうえん はくいん ぜん じ むりょうじゅ じ  
竹採公園と白隠禪師の無量寿寺

かつて竹取の翁が暮らしたと伝わるこの地には、明治初期まで無量寿寺がありました。臨濟宗中興の祖とされる原宿(沼津市原)の白隠禪師(1685～1768)が再興したことから、白隠禪師の墓【富士市指定史跡】が祀られています。白隠の言葉をまとめた「無量寿禪師草創記」では、富士山のかぐや姫伝説を取り上げることで、寺の位置するこの地の神聖性を説いています。

現在は公園として整備され、物語に基づいたミニチュアの舞台を堪能できます。また園内には、「竹採姫」と刻まれた竹採塚【富士市指定史跡】があります。〔8ページ参照〕

竹採公園

富士市比奈 2085-4

〔開園時間〕

3月～9月：午前8時30分～午後6時

10月～2月：午前8時30分～午後5時

〔休園日〕

木曜日(祝日の場合は開園し、翌日休み)

12月29日～翌年1月3日

〔駐車場〕

普通車 8台





### 竹採塚

正面に「竹採姫」と刻まれています。



### みかえり坂

9ページで「見返し坂」として紹介している伝承地をイメージしています。



### 白隠禅師の墓

正面に「開山神機濁妙禅師」と刻まれています。



順路

WC

采神池

神来の庭

水琴窟

神授の竹

神授の路

国司の庭

降天の丘

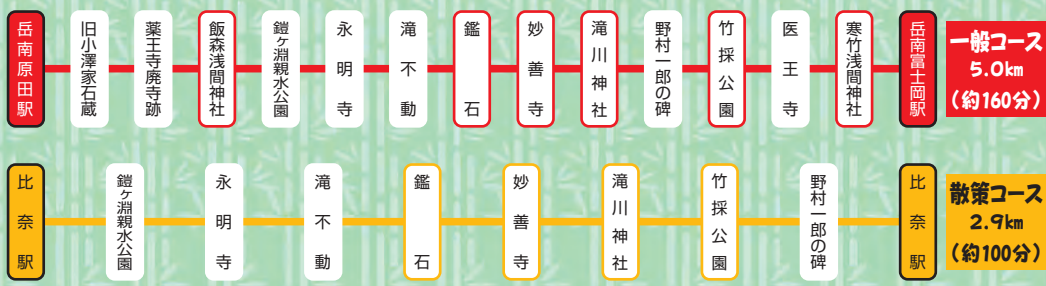
大池



# おすすめモデルコース



岳南電車から  
歩いて巡る



たきふどう  
滝不動



小さな滝が落ちる池に不動明王が祀られています。昔、身体中のいほに悩む娘が池の水を身体にかけると、全身のいほがなくなったといいます。その後「いほとり不動さん」と呼ばれるようになりました。

のむらいちろう ひ  
野村一郎の碑



野村一郎は西比奈村の名主で、水が不足する村のために水路を開削したり、防潮堤を築いたり、茶業の振興を図ったりと、幕末から明治期にかけ、生涯を地域の発展に尽くしました。

いおうじ  
医王寺



薬師堂には眼病治癒の御利益で篤く信仰される薬師如来坐像【富士市指定有形文化財】が祀られています。境内に生えるマキの大木は富士市指定天然記念物です。また、山本勘助の墓があることで有名です。

周辺の名所・旧跡

- 富士山かくや姫ミュージアム  
(富士市立博物館) 約15分
- 富知六所浅間神社 約10分
- 吉原公園 約10分
- 原田公園 約10分
- かがみ石公園 約5分
- 竹採公園 約5分
- 寒竹浅間神社 約15分
- 今宮浅間神社



きゅうおざわけいしぐら  
旧小澤家石蔵



小澤家は、幕末から明治期の原田地区の大地主で、かつては見学者が絶えない立派な屋敷がありました。現在は石蔵を残すのみですが、意匠的に優れ、市内では数少ない明治中期のものです。

やくおうしはいしあと  
薬王寺廃寺跡



現在、廃寺跡に薬師堂が建てられています。目の治癒に御利益があるといわれ、「ヤクさん」として地域に親しまれています。境内には、寛文元年(1661)の庚申塔など、いくつもの古い石造物が建っています。

よろいがふちしんすいこうえん  
鎧ヶ淵親水公園



「鎧ヶ淵」とは、源頼朝が鎧を淵の岩にかけて身体を洗ったという言い伝えに由来します。隣接する永明寺は歴史あるお寺で、裏山の地形に配した美しい庭園がよく知られています。



富士市では、富士山に還るかぐや姫伝説にちなんで、さまざまなイベントやまちづくりに、かぐや姫の物語が活かされています。

## かぐや姫コンテスト

毎年7月に行われる「富士まつり」では、「かぐや姫コンテスト」が行われます。かぐや姫クイーンとかぐや姫が、一年間富士市のPR活動を行います。



## 姫名の里まつり

比奈地域（姫名郷）のある吉永地区では毎年、竹採公園でかぐや姫伝説をモチーフとしたプログラムのイベントを行っています。



## マンホールの蓋

富士市の地下式消火栓用マンホールの蓋には、かぐや姫と富士山の絵柄が描かれています。



## 富士てがみまつり

11月23日（いい文の日）に、東比奈にある長学寺の手紙供養祭で、かぐや姫や竹取の翁に宛てた手紙のコンクールが行われています。





# 富士山かぐや姫

## ミュージアム

(富士市立博物館)



富士山に還るかぐや姫の物語を展示する、世界でただひとつの博物館です。ここで富士山とかぐや姫について知識を深めてから伝承の地を訪ねれば、物語の世界が一層広がります！

### 【開館時間】

4月～10月：午前9時～午後5時

11月～3月：午前9時～午後4時30分

### 【休館日】

月曜日（祝日の場合は開館）、祝日の翌日

12月28日～翌年1月4日

### 【観覧料】

無料

### 【お問い合わせ】

〒417-0061 静岡県富士市伝法66-2

TEL 0545-21-3380 FAX 0545-21-3398

e-mail museum@div.city.fuji.shizuoka.jp

URL <http://museum.city.fuji.shizuoka.jp/>





〈お問い合わせ〉

富士市 市民部 文化振興課 文化財担当

〒417-8601 静岡県富士市永田町 1-100

TEL 0545-55-2875 FAX 0545-53-0789

平成28年 3月発行  
平成29年 3月第2版発行